

外国人介護リーダー育成へのこれまでの歩み

三前 良平（大阪コミュニティワーカー専門学校）

【はじめに】

当校は1984年に臨床福祉専門家の養成を目的として開校。社会福祉士及び介護福祉士法施行後は昼間部2年制の介護福祉士養成施設として、また、1997年には夜間部3年制も併せて開校し、人材育成の歩みを続けてきたが、2000年代後半から急速に新高卒者を中心に入学者が減少し、2008年には昼間部2年制、2015年には夜間部3年制の募集を停止するに至った。しかし、初任者研修をはじめとした講座等を開講する中で、介護の専門家養成に対する社会からの期待や資格取得の要望は確実に存在していることを感じており、入管法改正による新たな在留資格「介護」の誕生も視野に入れて2016年に昼間部3年制を開校した。

【留学生受入れの変遷】

在留資格「介護」の創設となった入管法改正が当校の予想より遅く2016年11月となったことから留学生受入れは2017年度からの開始となった。留学生への教育には日常生活における「管理・指導」も重要であり、多種多様な問題も生じたが、様々な方々から助言をいただけたことで経験を積み重ね、留学生在籍者約130名の現在に至っている。

【3年制としての当校の特徴】

2年制と比較して、1日の授業時間が短く、留学生がアルバイトをしやすい環境にある。現在、介護福祉士養成施設に在籍する留学生の多くは介護福祉士修学資金制度を利用していると考えられるが、当校では基本的に自身で学費を支払って学んでいる留学生が大部分を占めている。また、それを可能とする為に、できる限り経済的事情にも寄り添い、授業料に関して毎月の分割支払い制度を導入するなどして対応している。

【学生募集活動と留学生教育での課題と問題点（主に管理・指導面から）】

留学生受入れを開始してから2年間はエージェントを通して学生募集を行った。当初は「介護」に対する留学生の理解が進んでおらず、入学したものの残念ながら退学する学生が出てきたり、近隣施設に協力いただいた介護アルバイトでのトラブルなどが数多くあったりした。現在では、当校を志望する留学生に対して「介護」とは何かについての周知を徹底することはもちろん、日本語教育機関等の先生方へ外国人介護人材の将来性について、学生募集活動を行う中で、当校のシステムとともにしっかりと伝えさせていただくことで、外国人介護リーダーとして日本で働きたいという意欲を持った留学生を数多く獲得することができている。

【今後に向けて】

留学生は言うまでもなく、それぞれが多様な文化・価値観をもつ「ひとり」の人間である。その「ひとりひとり」の学生と真摯に向き合い、互いを高めあう関係性を構築していく必要がある。これからの介護福祉人材の動向を注視し、介護福祉士養成校での人材養成に対する社会的期待、それに携わる意義、そして責任を考え、世界に通用する介護リーダーの育成に注力していきたいと考えている。